

2021年 第4号

本レポートは、経済産業大臣の認定を受けた経営発達支援計画に基づき作成・発行いたします。



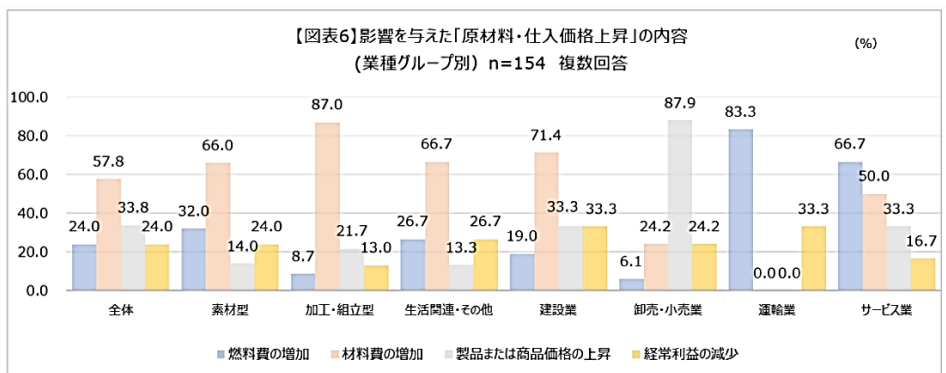
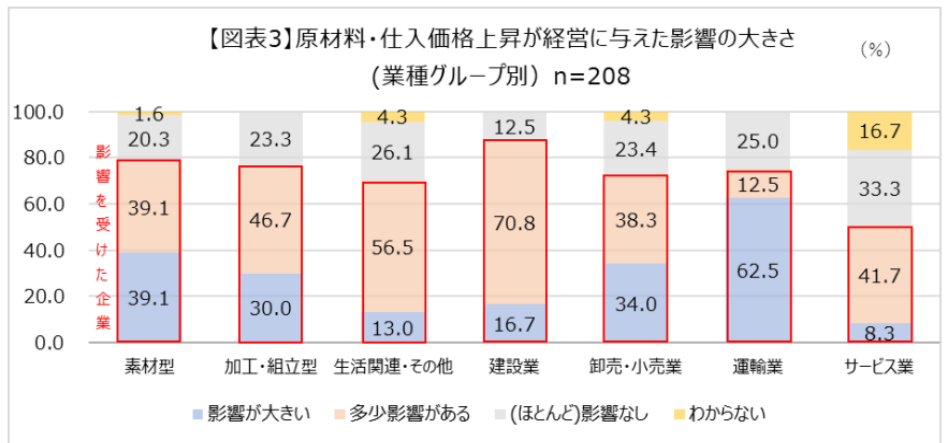
**金山町商工会**

TEL 0576-32-3370  
FAX 0576-32-2882

今回は原材料・仕入価格の高騰をテーマにフォーカスしました。  
現在、新型コロナウイルスの影響を受けて、ウッドショックや半導体ショックなどが発生し、原材料価格の上昇や部品の供給不足が世界的な問題となっています。その詳細について調査をもとに報告します。

## ▶①原材料等の価格上昇によって影響を受けた企業の割合とその内容

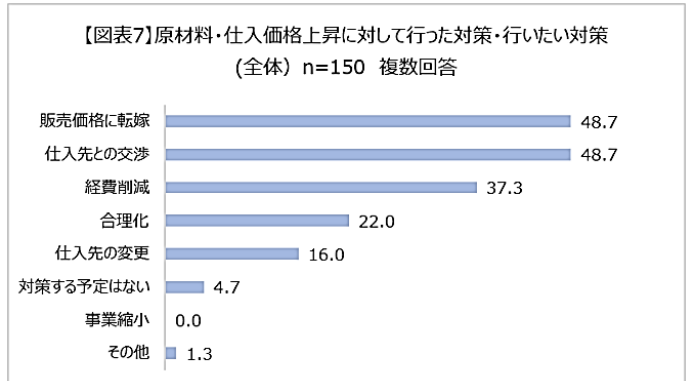
原材料・仕入価格上昇が経営に与えた影響の大きさについて見てみると、影響を受けた企業は全体の75.0%を占めており、また業種グループ別でみると「影響が大きい」と答えた割合が高かったのは運輸業で62.5%、次いで素材型で39.1%とサービス業以外の業種グループではいずれも影響を受けた企業の割合が約7～9割を占め、特に建設業では約9割にのぼった。さらに影響を受けた具体的な内容について、業種グループ別でみると製造業中心の業種グループ（素材型、加工・組立型、生活関連・その他）や建設業では「材料費の増加」、卸売・小売業では「製品または商品価格の上昇」、運輸業やサービス業では「燃料費の増加」が最も高い割合を占め、業種で内容が異なることが分かります。



【出典：十六総合研究所 原材料・仕入価格上昇の影響に関する特別調査】

## ▶②原材料等の価格上昇への対策と価格転嫁の難しさ

これらの状況に対して行った対策・行いたい対策について見てみると、「販売価格に転嫁」と「仕入先との交渉」が最も高く48.7%。また「対策する予定はない」は4.7%のみで、何かしらの対策を行った、または行う予定の企業がほとんどでした。また、「販売価格に転嫁」をした企業が仕入価格上昇分の何%程度を価格転嫁したかを見てみると、最も多いのは「10%未満」で34.3%、次いで「10～30%」が20.0%と、価格転嫁できている企業でも仕入価格上昇分の3割未満しか価格転嫁できていない企業が多いと分かります。



【出典：十六総合研究所 原材料・仕入価格上昇の影響に関する特別調査】

## ▶③原材料等の価格上昇に関する課題解決に向けて、まずは商工会へご相談ください。

現在、大きな課題となっているこのような原材料等の価格上昇による影響を乗り越えるため、具体的には、価格転嫁に向けて自社の商品・サービスの付加価値や競争力を向上する、経費の削減に向けて既存のコストの内容を分析して対策を行う、業務の効率化を図ることなどが考えられます。商工会では、それら経営改善の取り組みについて、エキスパート専門家派遣制度や各種補助金などを活用した支援を実施しております。まずは商工会へお問合せ下さい。

## ▶食のトレンドを追う ～2021年のトレンド大賞と2022年のトレンド予測～

2021年は「マリトッツォ」や「レトロ食」が大きな話題となりましたね。馴染みのある方も、初めて聞いたという方も様々かと思いますが、今回は食にフォーカスしてトレンドを追ってみたいと思います。

マリトッツォはフワフワのパンにたっぷりのクリームが溢れんばかりに詰まったイタリア発祥の伝統菓子です。そのビジュアルも美味しさも、スイーツ好きの心をわしづかみにしています！今ではその人気と知名度も広がりを見せ、さまざまなフレーバーを販売する店も増えており、丸っこくてころんとしており、として可愛い見た目はインスタ映え間違いなし。テレビや雑誌で度々紹介され、スーパーやコンビニで良く目にしたかと思いますが、生クリームやパン生地をアレンジした商品や専門店も誕生しました。

レトロ食はノスタルジックな雰囲気デザートや飲食店、食器類などを指し、自宅でクリームソーダやコーヒーフロートを作ったり、コンビニでも「昔懐かしい」タイプのプリンが発売されたり、昭和風の大衆酒場が注目されるなど、レトロ感のあるパッケージや内装、昔懐かしいや落ち着いたのあるデザインがテレビや雑誌、SNSで話題となりました。

2022年のトレンド予測としては、昨年から、少しずつ話題になったオートミールや麦芽飲料などに代表される健康志向や環境配慮といった商品がキーワードになりそうです。特に「植物由来乳製品代替品」などに注目が集まりそうです。植物由来乳製品代替品と聞くと難しいイメージですが、大豆やアーモンドの植物を原料としており、ソイミルク・アーモンドミルクなどと呼ばれます。乳製品と比べ、低脂肪・低コレステロールでありながら、ビタミンやミネラルが豊富で近年の健康志向に合致します。

また、環境配慮が盛り上がりを見せる中、廃棄食材に新たな付加価値を生み出す商品にするアップサイクルや、従来の畜産に頼らない培養肉、食材に火入れをしないで食べるローフード、必要な量だけを購入する量り売りなどがトレンドとして予測されています。その他にもティラミスやプリンなどのイタリアンスイーツの再ブームにも注目です。

話題づくりにこうしたトレンドを取り入れた商品をラインナップしてはいかがでしょうか。新商品に係る開発や広報宣伝など、商工会でも支援させていただきますので、是非ご相談下さい！

(参考：トレンドーズ株式会社「2021年の食トレンド大賞&2022年の食トレンド予測」より)

### DUCHI GOHAN おうちごはん 2021年間食トレンド大賞

### DUCHI GOHAN おうちごはん 2022食トレンド予測



## 下呂地域内における景況状況（調査時期：令和3年10月1日現在）

下呂市が市内の企業を対象に、売上高・採算・生産性・仕入単価・販売単価・資金繰り・雇用動向・業況などを調査した「市内景気動向調査」における **業況判断DI値** の結果です。

前期比DI値と比較してみると、全業種における合計値は前期の△32.6から△16.9となりました。

コロナ禍に苛まれている過去4期の中では最も高い値ですが、依然マイナスの値で推移していることに変わりはなく、今後の見通しについても、前期より回復を見込んでいます。

業種	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10
1 製造	△34.6	△36.5	△53.2	△33.3	△17.2
2 建設・建築	0.0	△11.4	△37.8	△22.6	17.1
3 運輸	△33.3	△36.3	△71.4	△28.6	0.0
4 卸売・小売	△51.5	△71.2	△72.5	△39.2	△22.4
5 飲食・宿泊	△31.4	△64.9	△71.6	△58.6	△41.6
6 サービス他	△23.5	△28.2	△40.7	△22.2	△15.7
7 その他	△27.5	△31.1	△28.6	△8.4	△2.7
合計	△27.0	△42.1	△52.7	△32.6	△16.9

※DI値とは、業況判断指数のことで、ゼロを基準値として、景気の動向をプラスとマイナスで示した数値です。